

NEWS

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報

1982 9.10

インテリア産業振興対策委員会 中間報告書から(第3回)

通産省の生活産業局住宅産業課から、標題の委員会中間報告書が出された。この内容に関心の深い会員も少なくないと思われるので、A4判25ページに亘る内容のものを、以下の順序で全3回に分けて転載することとした。(今回で完結)

第1回 (第1章「インテリア人材育成とその問題点」
の約1/2つ)

第2回 (")

第3回 (第2章「インテリアコーディネーター資格制度の提案」)

8. インテリアコーディネーターの育成

(1) インテリアコーディネーターと類似する人材育成の現状

本報告の4、人材育成の現状においては、インテリア産業に携わり、現在活躍している各種の専門技術者の育成状況について述べているが、ここでは、インテリアコーディネーターあるいはそれに近い人材の育成に絞り、それがどのような状況にあるかを概観してみる。

目 次

●インテリア産業振興対策委員会 中間報告書から(第3回).....	1
●57・第2回理事会議事録	6
●委員会一覧	8
●「金沢ツアー」ご案内	10
●関西事業支部だより	10
●「IFI MAGAZINE」予約受付	10
●国際オフィス家具デザイン・コンクール	12
●「大阪21世紀計画」シンボルマーク決定	13
●委員からのひとこと集(総務委員会の巻)	13
●関西支部受賞記念 JID 3人展	15
●新入会員の紹介	18
●事務局短信	20

結論的には、インテリアコーディネーターの養成を目的とした教育訓練機関は皆無に近い状況にある。

まず、大学をはじめ、短期大学、高等専門学校、工業及び工芸高等学校ではいずれも、これらの人材育成を目的とした教育を行っていない現状である。

専門学校においては、インテリアコーディネーターに近い人材を育成している学校が僅かではあるが見受けられる。

一方、インテリア産業全般の企業内教育については必ずしも明らかにされていないが、専門委員会の調査によれば、これらの人材育成を社内再教育という方法で行っている企業の例が数社ある。

その効果が企業活動にどのように反映し、また、どのような成果を得ているかなどの詳細については、今後の調査を待たなければならない。

また、業界関連団体の教育事業及び各種の講習会、研修等においては、散発的ではあるがインテリアコーディネーターに関連する内容の事例を認めることができる。

(2) 今後のインテリアコーディネーター育成について

① 学校教育による方法

大学、短期大学のデザイン系教育機関においては、インテリアコーディネーターそのものの育成は、現行の教育制度、教育理念等から判断すると極めて困難であるといえるが、これらの教育機関での教育が、インテリアコーディネーターの基礎的素養として役立つであろうことは認められてよい。

また、工業及び工芸高等学校のインテリア科におけるインテリアコーディネーターの育成も考えられよう。これらの高校教育の高学年において、選択制をとれば、ある程度の効果を期待することができるかもしれない。

インテリアコーディネーターの育成の場に最もふさわしい機関としては専門学校が考えられる。この専門学校の社会的役割について、「進展し、多様化する産業社会に対する専門知識、技術を育成し、また高度の生涯教育をその使命とする。」とされていて、これからのインテリア産業界が求める新しい人材の育成機関としての可能性を有しているものとい

えよう。

しかし、「豊かな生活経験と客観的で公正な判断力を持つ」ことを要求されるインテリアコーディネーターにふさわしい資質を身につけるには、いずれの機関による育成にせよ、それだけでは不十分であり、企業等における継続的な企業内教育等が必要なことはいうまでもない。

② 企業内教育による方法

インテリアコーディネーターを必要とする企業がこれを育成、あるいは再教育を行うのは有効な方法の一つであり、これが円滑に機能すれば、かなり適確な人材が得られよう。

しかし、この方法は、以下に示すとおりプラス面を有しているものの、マイナス面をも併せ持っている。

この方法のプラス面としては、①各企業の特性に見合った人材育成が可能で、目的が明確であるので、教育を行いやすいこと。②教育の成果を直ちに実践で試みることができ、その結果をさらに教育に反映させ、有効な人材の育成を図ることができること等があげられよう。

しかし、マイナス面としては、①教育の内容が合目的過ぎ、個別企業の事情に左右される傾向が生じやすく、教育としての社会的普遍性に欠けるおそれがあること。②企業活動の中で行う教育全般にいわれることであるが、特に問題となる点として、時間的制約が厳しく、継続的な教育を行うことが困難で成果が上げにくいこと等があげられよう。

③ 業界関連団体及び講習会等による方法

企業内教育ほどには個別的な教育の徹底はできないが、投資的な立場からは、効率がよい方法である。

ただし、あくまで講習会の性格を払拭できにくいところに問題を残すのではなかろうか。

④ 育成方法における一つの提案

前述のようにインテリアコーディネーターの育成についてはさまざまな方法があるが、それぞれの教育の場の特性を組み合わせた複合的な教育が望ましい方法と考えられる。

すなわち、専門学校等による広範囲な基本的教育

と、実践的なトレーニングに主眼をおく企業内教育を組み合わせて、実践教育としての「インターン制度」的な実務教育を目ざすものである。これにも種々の問題が生じることが予想されるが、インテリアコーディネーターの機能を考える時、かなり有効な方法と考えられ、試みるに充分の価値を有するものと思われる。

(3) インテリアコーディネーター育成のための教科及びその構成

インテリアコーディネーターはインテリア及びインテリアエレメントに関するデザイン、技術、施工、販売などの知識と経験を有し、インテリアエレメントを相互調整し、統合する能力をもち、トータルインテリアを助言、提案することができるものとされているので、これらの機能に要求される資質と能力を啓発する教科とその内容は次のようになる。

1. 商品一般

インテリアエレメント全般の商品知識

2. 販売一般

販売、見積、流通及び接客

3. 情報一般

情報の収集、処理及び管理

4. 施工一般

施工、工程管理、安全及び保守

5. 建築一般

建築構造、建築図面及び建築材料

6. インテリア一般

デザイン一般、インテリアコーディネート、材料及び表現力

7. 関連法規

家庭用品品質表示法、消防法、建築基準法、その他の関連法規

(4) 期間・時間・カリキュラム

一応の目安として専門学校に準じたものとすれば、期間は1年間、年間総時間数800時間となる。さらに、将来は1年間の実践教育を併せて行う「インターン制度」を導入し、期間は2年間、時間数も年間1,200時間程度まで引き上げることが望ましい。ただし、これはあくまでも一つの目安であり、育成方法、機関等

により異なることはいうまでもない。

カリキュラムについては、実習を通じたコーディネート技術訓練の教科を通年のベースとし、これに他の教科を有功と思われる時期、場所に適宜組み入れ編成することが望ましいが、ここでは、これ以上の詳細には立ち入らないものとする。

(5) その他関連する問題

教師（講師）の人選、編成については、各教科にわたりそのエキスパートを充てることは当然のことであるが、成果をあげるために最も重要な点は、教科全般を把握し、教育を総合的にオーガナイズする経験豊富な「主任教授」的な人材を配置することである。

その他、教育施設、設備、器材、教科書の確保などが検討されるべき事項である。

第2章 インテリアコーディネーター資格制度の提案

1. インテリア需要の振興とインテリアコーディネーター資格制度の提案

現下の最大の政策課題は、内需の振興による内外均衡の達成にある。内需の振興については、欧米諸国に立ち遅れている居住環境の質的向上に的が絞られるものと考えられる。このような状況にあって、インテリアは個性的な住空間を構成するといった国民の住意識の潮流に沿ったものであり、今後その円滑な需要拡大が期待されている。

しかしながら、現在のインテリアの需要、供給については、次の点が指摘され、需要側の動きに供給側の対応が立ち遅れている状況にある。

① 需要側においては、住生活の質的向上の欲求、特に個人個人が住空間の中でオリジナルな生活価値を実現することに対する欲求が高まっている。また、単に個別商品の選択購入という消費行動から、生活環境をどう変えていくかといったトータルな住空間を実現しようとする消費行動へと変わりつつある。

② しかしながら、需要側には、上述の欲求を実現するための具体的方法や購入選択基準などに関する情報が不足しており、一方、供給側では需要者の購入時点でのこれに対する配慮を欠いているということがいえる。

③ 以上のような状況は、供給側において、単品アイテ

ム別志向、川上志向、物流志向の考え方やビヘイビアーを需要者との接点にまでそのまま持ち込んでいることが根本的な原因となっている。このことが住生活の質的向上が求められている時代に、インテリア需要の掘り起こし及び拡大、効率よい商品開発、販売コストの低減といった課題の解決を困難なものとしていると言わざるを得ない。

このような需要側と供給側の懸隔を埋め、国民の潜在的なインテリア需要を発掘していくためには、インテリアコーディネーターが是非とも必要とされている。

その根拠は、次のとおりである。

- ① 具体的な需要の喚起のためには、需要者と直接対応する接点である流通末端での人材機能面での施策を優先すべきである。
- ② 無秩序に実体化が進んでいるインテリアコーディネーター的機能について、その機能を明確にし、必要な技能知識の標準化を図り、健全な育成を行うためには資格制度が必要である。
- ③ 産業界における必要な人材育成面からみると、単一業界や個別企業内では育成コストや職能の汎用性という点から、困難なものがある。インテリアコーディネーターはこの場合に当てはまるものであり、社会一般のシステムの中から養成されてくることが望ましい職能といえる。
- ④ 需要側にバランスのとれた消費行動を普及させ、需要拡大につながらせるために、需要者の中でインテリアコーディネーターに市民権を得させることが必要であり、このためには、インテリアコーディネーターの資格を制度的に確立させることにより機能及び存在を広く一般に知らしめることが有効である。

なお、現在、インテリアコーディネーターとしての実体が各所に萌芽的に現われているが、その機能、役割等について、それぞればらばらな形で進展してきているため、ややもすれば望ましいインテリアコーディネーターの育成上、阻害要因となるおそれもある。

そこで、このような状況を克服していくためには、統一的なインテリアコーディネーター資格制度が有効であると考えられる。

2. 資格認定の方法

インテリアコーディネーターの資格認定に当たっては、資格取得者がその能力を十分発揮して働く場が現実に得られるということを十分勘案する必要がある。

また、インテリアコーディネーターの資格レベルについては、将来、資格制度が発展し、インテリアコーディネーターが社会的に定着していく段階でレベル分けも必要になると考えられるが、現段階では、インテリアコーディネーターとして最低限保有していなければならない知識と技能を前提にした資格認定から出発することが適切と考えられる。

したがって、本制度によって資格を取得したインテリアコーディネーターは、その基礎的知識のうえに立って、実務経験を通じた資質の一層の向上を図っていくことが重要である。

以上のことも併せて検討した結果、資格認定は、知識及び技能についての試験によることとし、その方法については、次の案が考えられる。

(1) 受験資格

次の各号の一に該当すれば、受験することができる。

1. 大学、短期大学、専門学校のインテリア関連学科・コース等を卒業した者
2. インテリア関連分野での実務経験^{*1}5年以上の者
3. 前2号に掲げる者と同等の知識及び能力を有すると認めた者

*1 インテリアエレメントの生産、販売、加工、施工等の業務

(2) 試験科目及びその内容

試験は、次の7科目について行う。

1. 商品一般
インテリアエレメント全般の商品知識
2. 販売一般
販売、見積、流通、接客
3. 情報一般
情報収集、処理・管理
4. 施工一般
施工、工程管理、安全、保守
5. 建築一般
建築構造、建築図面、建築材料

6. インテリア一般

デザイン一般、インテリアコーディネート、材料、表現力

7. 関連法規

家庭用品品質表示法、消防法、建築基準法、その他関連法規

以上の科目及びその内容のうち、4.施工一般、5.建築一般、6.インテリア一般及び、7.関連法規については、工業高等学校インテリア科の教科書に盛り込まれている程度とする。

(3) 試験科目の免除

受験資格のある者で、次の各号に該当するものは、それぞれ一部の試験科目が免除される。

1. 大学の建築学科を卒業した者又は一級建築士若しくは、二級建築士の資格を有する者

免除科目 「建築一般」、「施工一般」

2. 大学若しくは短期大学のインテリア科に関連する学科を卒業した者、又は専門学校のインテリア関連コースを卒業した者

免除科目 「インテリア一般」

3. 職業訓練法に基づく職業訓練短期大学校、総合職業訓練所のインテリア関連の指定科目であって、別に指定するものを卒業した者

免除科目 「施工一般」

3. 資格認定の実施機関

資格認定を実施する機関は、公益法人であることが一般的な要件といえよう。

さらに、インテリアコーディネーターをはじめ、インテリア関連業界で必要とする各種人材、職能に係り合う資格制度が広く認知され、所期の効果をあげるためには、資格認定の実施機関が全国的な規模の団体であること。インテリア関連の各業種、業態を横断的に掌握している団体であることも重要な条件となろう。

すなわち、各種インテリアエレメントメーカー、卸・問屋業、小売業（百貨店、量販店、月販店、専門店など）のほかに、住宅のエンドユーザーに接触している販店、ハウスメーカー、インテリアデザイン事務所及びインテリア設計事務所などを包含し、個人、企業、関連団体の参加で組織構成された総合的な団体が必要であらう。

このような団体が資格制度の実施機関となることによって、はじめて資格制度が定着し、資格が権威あるものとなるのであるが、現状ではこれに該当する団体組織は見当たらない。

したがって、インテリア関連業界の人材育成と資格制度の実施を円滑に行うことができる公益法人の設立のため、具体的な準備作業を早急に着手する必要がある。

4. 資格制度の維持・管理、運営等

資格制度は本来、消費者の利益保護を図るとともに、資格取得者及び関連業界の資質向上に資し、ひいては社会全体に背益なものでなければならない。

しかし、現存する資格制度の中には、その維持・管理など運営のしかたによって、閉鎖的、事大主義的なものとなっている例や時代遅れとなっている例も多い。

新しい資格制度が所期の目的を達成するためには常に、社会的変化に対応した制度の運営が望まれる。

有資格者の資質、能力水準維持のための研修を義務づけるほか、資格の剥奪、復権などについては、資格制度の骨子を固める段階で十分検討されることが望ましい。

5. 資格取得者の受け入れ体制

新しい資格制度による資格取得者に対しての受け入れ体制が整備されていることは少なく、制度制定、運用の初期においてこれが問題となる例が多い。

したがって有資格者が受け入れられるよう企業側に対して、十分なコンセンサスを得る等、受け入れ体制の整備をしておくことが必要である。

6. 資格制度の実施時期

インテリアコーディネーターの資格制度に関しては、過去数年間、さまざまな角度から検討されて来たが、その実施時期については、必ずしも明確にはなっていないまま今日に至っている。

その間に、インテリア産業関連分野において、各種の類似呼称が一部実際に使用されており、能力、資質の程度が明らかに異っていると見られる者に同一呼称を与えたり、同一機能、類似機能を持っているにもかかわらず、異った呼称を使用している現状である。

こうした、呼称の混用、乱用は一般購買者に混乱を与えるばかりでなく、インテリアコーディネーター的機能を果している者全般の正当な評価を妨げ、基本的な権利

を侵害されるおそれもある。

このような事情も勘案して、実施の時期はなるべく早いほうがよいという考え方が、本委員会の中では支配的である。

57・第2回理事会議事録

日・時 昭和57年7月30日(金) 1:30~4:30 PM

場 所 建築家会館3階会議室

出席者 理事長 三輪正弘

副理事長 泉 修二

名誉理事 岩瀬要三, 松本政雄

理 事 尾上孝一, 川上信二, 島崎 信

垂見健三, 富田貞司, 中川千年

中村圭介, 森谷延周, 山品 元

渡辺 優

委 任 状 宇賀敏夫, 川崎 浩, 樋口 治

はじめに議事につき、三輪理事長より説明あり、報告事項より審議に入る。

I. 報告事項

- ① 第1回国際デザイン・コンペティション(大阪デザインフェスティバル)パンフレットについては去る5月、会員に発送した。来る10月末には応募登録の〆切りが行われるので、再度会員に周知を図りたい。以上事務局長より報告

② 1982年度「野口賞」募集

1983年3月1日に第一次審査〆切、3月15日第二次審査〆切りのスケジュールである。7月13日に東京都内の対象学校にご参集いただき、主旨、内容説明会を行った。また、事業支部関係の協力を得て、大阪、名古屋、福岡でも同様周知徹底を図るように考えている。

以上垂見理事と事務局長より報告。了承された。

③ JIDPO 海外インダストリアルデザイン短期研修生のグループトレーニングについて。

過去2回の実施経験を踏まえて、今回も(財)日本産業デザイン振興会の要請に応えたい。受入れ人数は例年通り6名の予定で、研修場所は都内の専門学校インテリアセンタースクールとなる模様。教育委員会担当

で全面的に計画、立案を行うが、講師派遣等会員諸氏のご協力を仰ぐことになるう。

以上、島崎理事より報告、了承された。

④ 57年度 秋の褒章申請に川崎浩氏

今年度は2人ほど該当者があったが、打診の結果、川崎浩会員(関西)を申請した。結果は9月下旬頃に判明しよう。以上事務局長より報告。

⑤ 事務局人事

55年7月より勤務、業務関係を主に担当した鹿児島美枝さんが7月31日付で退職。また、7月2日より後任として朝妻昭子さんが入局した。

理事会席上、鹿児島さんの労に報いる意味で、理事長から記念品贈呈が行われた。鹿児島さんご苦勞様。

⑥ 協賛関係

以下の4件につき、事務局長より内容および経過の報告があり、いずれも了承された。

(イ) 「第6回 大阪産業デザインコンテスト」10.21〆切 12.1発表

主催：大阪産業デザインコンテスト運営委員会

(ロ) 「'83 JAPAN SHOP (第12回店舗総合見本市)」 58.3.3~3.8 東京・晴海

主催：日本経済新聞社、(財)店舗システム協会

(ハ) 「'83 ショップ&ディスプレイナゴヤ」 57.12.17~12.18 名古屋・産貿

主催：名古屋ディスプレイ協同組合

(ニ) 「オフィスの環境計画における人間工学」 57.8.25 東京

主催：スイス ジロクロックス社、共栄工業(株)

⑦ 「東京を美しくする会」

昨年12月に発足以来、第3回の会合が7月19日開かれ、JID から川上玲子、大野美代子両会員が出席した。会の規約案が決定。さし当り、テーマは「電柱」となった。日本アーキテクトレンダラーズ協会(光藤俊夫理事長)が新たに会員として参加した。以上事務局より報告。

⑧ 新オフィス家具の創造コンペ

IFI, UIA, ICSID など国際デザイン3団体の協賛を得て、フランス文化省が主催するコンペ。7月27日、在日フランス大使館で説明会が開かれ、JID

から長堀広報委員長、山品事務局長が出席した。

速報は「J I D NEWS」8月号で会員にPRしたが、更に詳細については、今後急ぎ会員に周知を行うこととなる。以上に関連して川上理事からも補足報告がなされた。

⑨ 備品の購入

新たにスチールファイリングキャビネット、タイプライターキャリア各1ヶ7月20日購入した。

⑩ 長崎在住会員見舞の件

台風10号で甚大な被害を受けた九州地区に、小川欣一、石中法文両会員が長崎在住である。本部よりお見舞品を発送した。

⑪ J I D 本部事務局 夏休実施

8月13、16、17の3日間、本部事務局は業務を停止する。

以上、9、10、11項いずれも了承された。

⑫ 財政報告及監査報告

財政状況につき提出資料に基き概況説明が事務局長よりなされた。会費の納入状況は若干ながら昨年度より良好である。

中村理事より、関東を除く各事業支部の事務委託費につき質問が出された。

監査報告については欠席の岡村、渡辺両監事を代行して事務局長より以下の報告がなされ、理事会はこれを承認した。

「7月29日、本部事務局に於て、渡辺力監事により所定の手順に従い、必要関係書類全てについて監査が行われた。結果、内容が正当と認められたので承認資料を添付の上ここに報告する。」

⑬ 日装連への協力

昨年秋に講師依頼があり、その後協力関係が続いている。全国10ブロックに分れているので、地域毎に会員分布の特性を活かしながら協力して行くこととなる。先方は受講後の資格認定などを目論んでいるので若干その辺は今後とも慎重に対応する必要があると思う。以上、森谷理事より経過報告。

II. 議 題

① 日本・デンマーク・デザインセミナー（コペンハーゲン）

去る5月9日より14日までデンマークで行われたセミナーにつき川上理事より報告された。（この件は7月23日、東京での報告会で報告。詳細はいずれ機関誌などで会員にレポートされる予定）

また、このセミナー開催に到るまでのおよその経緯が同理事より説明され、更に1983年6月頃をメドに、J I Dの幹事役で次回セミナーを東京で開きたいという気運が関係者の中にある。

これについて、三輪理事長をはじめ島崎、中村、渡辺理事のほか、松本理事からも、内容、時期、財源等につき活潑な意見が出た。

結果、川上、島崎両理事で、実行委員会設置などの（案）も含め早急に検討して行くことに決定した。

② 九州支部作品展、講演会および理事会開催の件

来る11月16～26日九州支部作品展（福岡市美術館）を計画中である。また、永井敬二準会員のコレクションによる「世界のイス展」も会場を別に設け併催する予定。

この機会を捉え、有力会員による講演会も開きたいので、同地で57・第4回理事会を開催することはどうか。以上、中川理事より詳細の計画（案）と主旨説明が行われた。これを受けて財政面での見通しが事務局長より出、また、開催についての諸意見が理事長をはじめ、中村、島崎両理事、松本名誉理事などから述べられた結果、理事会開催を含め、前向きに九州支部の事業を支援して行くことが決定した。次回理事会には更に詳細のプログラムが中川理事より提示される予定。

③ 新出版特別委員会

昨年7月に刊行した「日本のインテリアデザイン——光とのかかわり」の続刊を担当する新委員会の委員長を早目に決定して、準備に入ることが望ましいことから、その人事について審議された。

既刊の内容、評価を充分に検討して今後更に充実した刊行物を期待したい、とした上で永原浄会員が適任とされ、新委員長が決定した。

④ 準会員の諸問題について

従来より議題に度々採りあげられている準会員の諸問題が今回も改めて審議された。会費の納入状況が正会員に比べ、全般的に落ち込んでいる。位置が中途半端である。準会員としての、いわば定年制がない。

以上の実体を踏まえ、総務委員会にその対策(案)を付託し、理事会に諮問して貰うこととなった。

⑤ インテリアコーディネーター制度への対応

本件については重要議題でもあり、理事長をはじめ副理事長、渡辺、中村、島崎理事はかから活潑に意見、提言が述べられた。

特に住宅行政の視点から渡辺理事が、また、協会と(社)日本室内装備設計技術協会との関連や比較について中村理事が意見を述べた。

また、副理事長、島崎理事からは客観情勢が逼迫していることもあり、対応についての態度決定を急ぐためにも、出来る丈早い時期に改めて時間をかけた会合を持つべきだ、との意見が出された。

結果、理事長提言により理事会は次のことを決定した。

近日中に正・副理事長と在京理事のうち、中村、渡辺、森谷、山品の合計6人ができる限り広範な資料を持ち寄り、次回理事会までに検討資料を作成する。

以上を踏まえインテリアコーディネーター制度検討会(仮称)を8月19日開催、また本件を議題とする理事会を8月中に開催して継続審議することとなった。

⑥ 入退会関係

入 会

氏 名	種 別	推 薦 者
寺 本 雅 光	正 会 員	天本静男、中村忠司
瀬 尾 雅 勝	〃	桂田 温、今井 滋

退 会

氏 名	種 別	
川 村 真 左 士	正 会 員	
村 上 豊	〃	
安 藤 忠 雄	〃	
小柳ベニヤ(株)	賛助会員	
ロイヤル(株)	〃	
寿屋木工(株)	〃	

以上の件につき資料に基づき入退会が審議され、いずれも承認となった。

次回理事会は8月27日(金)の予定。

(以 上)

委員会一覧

● 通常委員会

委 員 会	委 員 長	委 員	そ の 他
総 務	山 口 勇次郎	西沢 圭三、竹森 聖子、中村 圭介、合田 正甫、大和 宏、山田 晃、平井 美蔓、佐戸川 清、塩田 一夫、高木 敦子、安藤 孚、山品 元、新川佐知子	
広 報	長 掘 映 司	山岸 枢史、吉良ヒロノブ、村口 峯子、嶋 佐知子、大久保道治、栗原 哲男、飯田 正久、下島 資子	
渉 外	大 野 美代子	川上 玲子、渥美 孝道、日方 和城、泉 正之	
教 育	島 崎 信	林 寅正、山永 耕平、加藤 帛子(以下調整中)	

事業	秋山修治,	海老沢 宏, 森谷 延周, 内村 麗, 岡部 史子, 寺原 芳彦, 阪井 良種	
業務	諸富幸成,	調整中	

●特別委員会

委員会	委員長	委員	その他
報酬基準	中村圭介,	関口 正己, 水野 信策, 尾上 孝一, 今崎 務, 嶋 佐知子, 矢吹 宏	
出版	永原 浄,	調整中	
ワーキング・G	木村 戦太郎,	調整中	
野口賞運営部会	白石 勝彦,	田中 聡行, 中田 重克, 泉 修二, 垂水 健三	事務局 山品 元
デンマーク・日本 デザインセミナー 実行委員会	島崎 信,	川上 信二, 渥美 孝道, 内田 次彦, 永原 浄	

●事業支部組織（再録）

支部	支部長	委員
関東	わたなべひろこ	吉良ヒロノブ 増本敏治 内田次彦 高田紀久枝 尾上孝一 加藤帛子 金子浩子
関西	川崎 浩	・支部運営委員会 川崎 浩, 富田卓司, 樋口 治, 金子誠之助, 山口道夫, 南原七郎 ・総務 金子誠之助(委員長), 柏原秀夫 ・事業 山口道夫(委員長) ・見学 並川拓史 ・展覧会 近沢晴雄, 夏原晃子 ・研究・教育 山内陸平, 中村隆一 ・広報 南原七郎(委員長), 式田 完, 鈴木儀男, 安永一典, 石村徹之, 井上喬子
九州	坂本康四	・総務 菊竹清輝, 溝口 新 ・広報 山永耕平, 箴島良介
中部	林 寅正	・総務 本多正之, 堀内啓二 ・事業 池田高明, 山本隆嗣 ・広報 田村 悠, 小柳朝一 ・北陸地区委員 小松曉一, 栃谷賢一

（表中 順不同）

「金沢ツアー」ご案内

一 関東・中部事業支部一

- 9月初旬にブルーのパンフレットでご案内した金沢 400 年記念国際工芸デザイン交流展とデザインシンポジウム（金沢ツアー）へ積極的にご参加下さい。現地での宿泊先確保の都合上、定員20名ですので、お早目にお申込み下さい。詳細は同封パンフレットをごらん下さい。（再録——関東事業支部委員会委員長：わたなべひろこ）

※前回印刷に一部誤りがありました。慎んでお詫びします。（事務局）

- 中部デザイン協会と共催で、以下の計画を進行中です。
申込みは中部支部事務局（052-321-5446 堀江氏担当）まで。〆切は9月30日です。

● 10月8日（金） 8:20 AM 名古屋栄テレビ塔前広

場集合

- “ ” 12:30 PM 交流展会場（石川県産業展示館）着
- “ ” 14:40 PM 講演会場（金沢ニューグランドホテル）着
（講師：フィンランド・ラップランド社イカヘイボ社長）

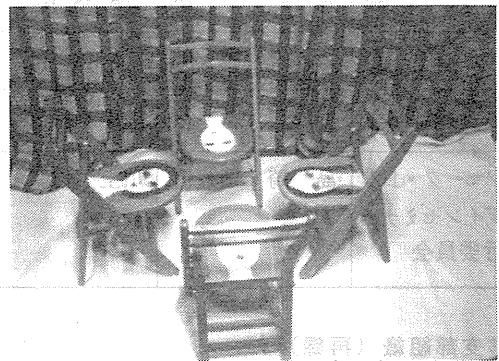
● 10月9日（土） 10:00 AM デザインシンポジウム 出席

- “ ” 15:00 PM 中小企業会館出発
- “ ” 17:00 PM 名古屋着（予定）
（中部事業支部支部長：林 寅正）

関西事業支部だより

「家具の研究は椅子に始まり、椅子に終る」ミハエル・トーネ（1796 - 1871）。「椅子に絵を描き絵に椅子を描く」藤川宏允（1930年 - ）。

大阪の画廊「白」で会員の藤川君が昨年の「二科入選落選油画展」について5月17日から個展を開いた。市販のヤコブセンの椅子からロッキング、折タミ等大小とりまぜ30脚ばかり、座、背、（座の裏）に女性が描かれている。



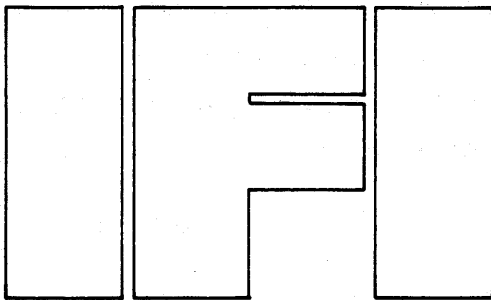
又100号からサムホールの小品まで50点ばかり、肌がきれいでポワーンとした彼好みの「彼女たちの絵に必ず一つ以上の椅子が描かれているというわけ。大学の先輩であり、大丸の独身寮で同室であったサトウ サンペイさんの「椅子」展覧の案内状と「美女をシリにしくゝなんて」という新聞の紹介記事の故もあり、夕方ともなれば毎日がオープニング・パーティといったわけで関西の各界のデザイナー、建築家で賑わった。

スウェーデン留学時代オッケ・ホルト（王立工芸大学教授）に椅子の模型から実物の製作までの手ほどきを受け帰国後も作品を多く発表していた。デザイナーの余技としての個展がよくみられる昨今であるが、デザイナーと絵かきとを、お互いに影響はし合うが平行して両立させようとする彼の姿勢がうかがわれる。（関西：川崎 浩）

『IFI MAGAZINE』予約受付

JIDがアジアから唯一加盟しているIFI（国際インテリアデザイナー団体連合：本部オランダアムステルダム）で、「JID NEWS」IFI版とも云うべき季刊（3. 6. 9. 12月の予定）ニュースが出ることにな

りました。A4版タイプ印刷で、各加盟団体からのニュースや、国際催事などが、そのまま（英、仏、独）掲載されます。以下が見本です。（毎号4～8ページの予定）



A word from the President	1	News from Members: ASID, title act	5
The Vice-President for Communication speaks his mind freely	1	1st International Design Competition Osaka	5
Forthcoming event: IFI Forum '82, Madrid	1	1er concours international de design Osaka	6
From the IFI Executive Committee	2	Open international competition for the creation of new office furniture	6
De la part du Comité de l'IFI	2	Concours international ouvert pour la création de nouveaux meubles de bureau	7
10th IFI Congress, May 1983, Hamburg	3	News from Members: BDIA	7
10. IFI Kongress, Mai 1983, Hamburg	3	Exhibitions and Fairs / Expositions et Foires / Ausstellungen u. Messen	8
Arbeitsumwelt und Wohnwelt - verschärft sich die Polarisierung?	4	Books / Livres / Bücher	8
Working environment versus private living spaces - does the polarity intensify?	4	IFI Magazine, subscription conditions	8
IFI-ICOMOS Forum, the Netherlands	5		

=====

A word from the President

=====

Computer-aid in planning is coming with big steps into our everyday professional life. If not yet, we will all before long come in contact with the world of computers. It is already too late to say no - so? To be negative or positive, that is the question. I believe both.

In Stockholm, Sweden, I have interviewed colleagues who are working with computers. That is to say, computers helping them to do specifications. CAD - Computer Aided Design - is not yet used in our profession here. With an inbuilt negativism towards the phenomenon I learnt a lot.

Computers, used the right way, help the interior designer to do a lot of boring,

better world, using their capacity to build environments with higher living capacity.

And we must all prepare ourselves so that we are masters over the computers and not give a chance to the computers to become masters over us.

Agneta Liljedahl

=====

The Vice-President for Communication speaks his mind freely

=====

"I know you believe you understand what you think I said, but I am not sure you realize that what you heard is not what I meant."

④ 会員個人宛直送の場合は、年間10米ドル（航空郵送料含む）で、右記に申し込んで下さい。

⑤ JID事務局では、IFIよりJIDへ直接送って貰い、JID経由で希望会員へ「JID NEWS」などと同時発送することを検討しております。（この場合も原文のまま。邦訳はしません）

希望の方はハガキで事務局まで申し込んで下さい（10月30日まで）。

• IFI
P.O.Box 19610
1000 GP Amsterdam
Nederland

• 支払(送金)方法:

- international money order
- transfer to postal clearing account (C.C.P.) of IFI, N° 2 06 95 33
- transfer to bank account of IFI with Amsterdam-Rotterdam Bank, Amsterdam account N° 46.61.38.237



国際オフィス家具 デザイン・コンクール

前号でお知らせした上記コンペの案内が、在日フランス大使館から届きました。以下掲載いたしますが、募集要項全文の邦訳も事務局（03-403-3649）にあります。
希望者はお申込み下さい。

国際オフィス家具デザイン・コンクール

フランス文化省は世界中の建築家、デザイナー、造形美術家に、21世紀に向う新しい時代のオフィス家具の創作デザイン・コンクール参加をよびかけている。受賞者はフランス政府の大量発注や民間の注文が得られる可能性がある。

応募者は、オフィス内の作業過程と配置、座席の位置等の各機能を考慮したデザインが要求される。しかもオフィス内の家具使用者の職階や室内の区分の有無、将来ますます増大する電子技術応用の事務機器の進出を特に予測すること、電気照明や一般来客のコース、シート、室内の快感、花等による飾りつけを配慮する。

このコンクールは2段階で実施され、第1段階は1982年6月から12月まで、アイデア・コンクール。第2段階は1983年1月から12月まで、10人のアイデア人選者と生産メーカーとの協力で試作品の製作。

審査員には、フランスのエドモンド・シャルル＝ルー（ゴンクール賞受賞女流作家、モード批評家、ドフェール内務大臣兼マルセイユ市長夫人、文化使節として昨秋来日）。シャロット・ベリアン（女流インテリア・デザイナー、日本に数年間滞在）、フランソワ・パレイ（ラビット公団専務理事、6月初め来日）、フランソワ・マティ（パリ国立装飾美術館長）等。イタリアのマリオ・ベリニ（建築家、デザイナー）、フィンランドのイリオ・クカプロ（デザイナー）、オーストリアのハンス・ホレン（建築家）、アメリカのジョージ・ネルソン（建築家、デザイナー）、そして日本の栄久庵憲司の各氏。

なお、ジャン＝フランソワ・グルンフェルド氏は委員長、「アルシテクチュール・ドージュルдой」誌のマルク・エムリ編集長とロンドン・デザイン・カウンスルのケース・ブランド所長は審査顧問。

第1段階で最大限10人の入選者が選ばれ、総額40万フ

ランの賞金が分配される。完成したプロジェクトや試作品はパリの装飾美術館で「1900～2000年のオフィス展」に出品される。各時代ごとの典型的オフィス・セットがアニメーションをとまって復元される。

またオフィス家具をまとめた刊行物が発刊されるが、審査委員会は掲載されるプロジェクトを選定する。

* コンクールの日程 *

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1) 1982年6月3日 | コンクールの発表 |
| 9月15日 | 応募者から主催者への質問の問合せ締切り |
| 10月18日 | 主催者からの回答 |
| 12月29日（パリ時間午後5時） | 応募プロジェクトの最終締切り |
| 1983年1月31日 | 審査結果発表 |
| 2) 1983年1月31日－12月30日 | 試作品の製作期間 |
| 1984年1月5日－15日 | 最終審査 |
| 4月1日 | 最終審査結果発表 |
| 1月－4月 | パリ国立装飾美術館で展示の予定 |

このコンクールにはいかなる国籍のものでも、個人またはチーム参加でも応募できる。応募申込み用紙は特に規定していない。コンクールの使用語は英語、フランス語。

コンクール規則書や問合せは6月10日以後、直接下記に請求のこと。

“ Concours mobilier ”
Commissariat général du concours
Pavillon de Marsan
107, rue de Rivoli
75 001 PARIS (France)
Tél. (PARIS) 260-3214

なおUIA事務局（国際建築家協会）でも規則書が求められる。

このコンクールはICSID（国際インダストリアル・デザイン団体連合会）、IFI（国際インテリア・デザイナー連盟）、ならびにUIA（国際建築家協会）の後援のもとに行なわれる。

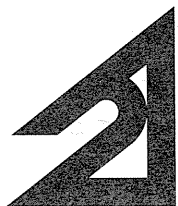
フランス文化省国際オフィス家具
デザイン・コンクール委員会

「大阪21世紀計画」 シンボルマーク決定

「大阪21世紀計画」の備進を進めている大阪21世紀協会（松下幸之助会長，本部大阪）では，これからの種々のイベントに使用するシンボルマークを先に公募していたが，その結果が今回発表された。

応募点数 1,201点（395名）の多数の中から菊谷久男氏（日本パッケージデザイン協会会員）の作品が採用と決まった。

尚，今後予定されている「大阪築城400年まつり」にまつわる各種イベントは，多彩に120の行事として計画中で，中でも「ニュースポーツオリンピック」や「ザ・花見」，「国際映画祭」，「国際演劇祭」，「世界帆船まつり」，「国際ファッションフェスティバル」，「国際グルメフェア」，「大阪城まつり」，「世界女子駅伝大会」などが興味あるところです。既報の「国際デザインフェスティバル」も，その一つに数えられている。



委員からのひとこと集 （総務委員会の巻）

新しく本年度委員を引受けて下さった方々に登場していただき，抱負など「ひとこと」綴ってもらいました。今後できれば輪を広げて，各委員会の委員にも登場していただけるとよいのでは，と考えています。

山口 勇次郎



「JID NEWS」をこれから新らしい総務委員会が受持つことになりました。前任の中村，山品，山田の三氏が残留して，新任達を助けてくれることになり，心強い限りです。今後は，全く新しい委員の企画も取入れてゆき，より親しみ易いものにしていきたい所存です。会員皆様の横の連絡紙とでも云うべき，この「JID NEWS」です。

どしどし御投稿願えるような紙面作りをして参りますので，何卒よろしく御協力下さい。

塩田 一夫



一残暑お見舞い申し上げます。
一この度，総務委員会に参加させて載く事になりました。総務委員会の業務の中でも，協会の唯一の情報誌である「JID NEWS」の充実が当面，私共に与えられた使命と考えられます。より内容の充実とその速報性を考慮し，又，賛助会員会社への有効媒体としての活用を皆様方と誠に微力ながら，一緒に考えてゆきたいと思っております。どうぞ協力の程，お願い致します。

大和 宏



良い議員立候補の公約は実行出来る範囲のことをあげて有権者にアピールします。悪い議員立候補者は実行も出来ない多くの公約を引っ提げて有権者をだまします。

山口勇次郎委員長よりご連絡があり，総務委員をお引き受けしましたが，私に何が出来，お役にたてるのか今から心配です。先の様な良い議員，悪い議員の例ではありませんが，せめて任期の間に，ほんの少々でも総務委員会の為にお役にたつことが出来る様，努力させていただきたいと思います。

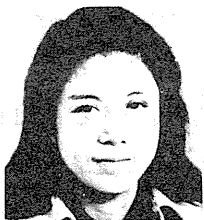
山品 元



総務委員会の守備範囲はたとえばみれば，野球のキャッチャーみたいなものかも知れません。ただ，野球選手と異なるところは，ピッチャーにサインを送るだけでなく，時としてスコアもつけるし，選手会のマネージャーも買って出る，選手名簿もつければ，合宿費用のお台所にも気をくばる——など多岐に亘ることです。云うなればキャッチャー兼ゼネラルマネージャーというところでしょう。

うか。会員向けの「JID NEWS」も今までの委員が速報性重視ということで発行して来ましたが、財政面から2ヶ月合併号もあいだに入りますが、何とか頑張って内容を充実させて行きたいもの——と考えております。

竹森 聖子



もぐらのごとく、はたまたマンボウのごとく、とまではゆきませんが、深く静かに、のんびりと、びそんでおりましたが、ひょいと、夏の太陽に浮かれて、まぎれ出てしまいました。一人で右往左往、シリメツレ！とこれからが思いやられますけれど、暗中模索ながら日々の出不精を改めつつ、楽しく、有意義な二年間にしたいと思います。今後共よろしく願いいたします。

合田 正甫



デザイン墨の捨石として、自分の技術を少しでも生かせたら、と年も忘れて頑張っています。創造と技の職人で、他の事は何も出来ません。頑固です。でも今度委員の御用を承ったのを機に、自分の出来る事で、少しでも、ほんの少しでも現在のデザイン界（インテリア）のお役にたてばと考えています。

高木 敦子



この協会を、おとづれたのが、今度で2度目です。初めは、入会の時、そして今度の総務委員会です。横のつながりを期待して入会させていたのが、水之上忠臣さんの、お元気な頃でした。あれから、ずいぶんたちましたが、欠席しっぱなしの会員でした。会報だけを眺めるだけの会員でしたが、これを機会に、横のつながりとか、情報とかが得られることを、期待して、今年の総務委員に、参加させていたゞきました。

新川 佐知子



8月20日（金）に総務委員の受託の御返事を事務局長山品様にいたしました。8月23日（月）に、抱負を文章にとの依頼がありました。今日は限定された

立場でのものは文章にする程にはありません。たゞ総務委員とは直接係わりなく、常々思っていることがありますのでかわりにとは言えないかもしれませんが、私、個人デザイン事業としての歩みが協会に反映していけたらと日々研鑽努力しております。宣しくお願い申し上げます。

西沢 圭三



デザインということばも世に定着し日本室内設計家協会も日本インテリアデザイナー協会となつてはや13年、われわれのJIDもどの様になってきたろう

か、世の中に対する貢献度はどうだろうか、密着度はどうだろうか、当協会の将来はいかにあるべきだろうか……。あまりにも急変しつつある現実をどの様に協会は解釈すべきなのか……。等々考えねばなるまい。益々デザイナーの存在価値を世にうた^{とき}えるべき機会が到来しつつある様に思う。

平井 美蔓



日々の業務に忙殺されながら、見学会、研究会等の各種会合の通知や、ニュースを手にする毎に、そのために日々の業務をさ

いて、御苦労頂く人達の少ない事を、知り得てきました。そしてJIDの動きを身近に感じながらも、積極的に参加する機会の少ない多くの人達の中の一人であった私です。

職能集団として、持つべき姿のととのった現在、魅力あるJIDとして、又日常の実務に利することの多いJIDとして、今何が必要なのかについて、皆様共々考えてゆくことの出来る機会を持てればと願っています。

以下、次号に続きます。（氏名順不同・敬称略）

関西支部受賞記念 JID 3 人展

— 記念講演会・懇談会報告 —

この度関西支部会員が期せずして、同時期に夫々の賞をうけられましたのでそれを記念し、作品展と最終日には講演会と懇談会を開催しました。久々の催しであり賛助会員、一般の人達も多数参加され大変盛会であった。

J I D 3 人展

日 時 1982年9月2日～7日

場 所 大阪駅前第1ビル12F 永大インテリアプラザ

展示内容

新居 猛 昭和57年度全国発明表彰

日本商工会議所会頭賞

ニーチェアーXと解説パネル

喜多俊之 昭和56年度国井喜太郎産業工芸賞

ニューヨーク近代美術館パーマネントコ

レクション、ウインクチェアーとパネル

照明器具2点とパネル

山内陸平 1981年日本インテリアデザイナー協会賞

オフィスのシステムファニチャーとパネル

記念講演会

日 時 1982年9月7日 15時～17時30分

場 所 大阪駅前第1ビル5F 朝日会計研修センター

講 師 新居 猛 ニーチェアーについて

喜田俊之 デザインと風土

山田陸平 オフィス環境におけるインテリアデザインの可能性

参加者 会員13名、来賓3名、賛助会員一般44名 計60名

新居氏は生まれ育った四国の地でニーチェアーを作りだすまでの過程と、参加者との対話にエピソードをまじえながら話をされ、喜多氏はイタリアの風土を中心にイタリアデザインが生まれる環境と、今回のウインクチェアーのデザインについて1部日本の風景を入れながら、スライドを中心に進められ、山内氏は日本におけるオフィスシステムファニチャーの普及のむづかしさと、欧州での一会社全体

がすばらしいデザインでまとめられそれにより企業成績も向上している好例をスライドを入れ説明され、3人3様個性的な講演会であった。

懇談会

日 時 1982年9月7日 18時～19時30分

場 所 大阪駅前第1ビル12F 中華料理北京

参加者 会員27名（東京2名、中部2名、関西23名）、来賓3名、賛助会員一般26名 計56名

司会は総務委員の柏原氏が担当し、川崎関西支部長の挨拶と日本建築協会福田朝生会長の祝辞を頂戴し司会者の「おめでとう」の発声でビールを飲みほし懇談会が始まった。頭初予定していた人員をはるかにオーバーし少し狭い会場ではあったが、終始なごやかで大いに食べ大いに飲み、料理の追加、ウイスキーの追加と幹事はヒヤヒヤの連続でうれしい悲鳴を上げていたが大盛会であった。最後に東京の中村氏、中部の松本氏からそれぞれお言葉を頂戴し再会を約し、その後いくつかのグループに別れ2次会、3次会も行われた様で翌日には頭が痛い人もいたともれ聞いております。

関西支部 金子誠之助





「パピルスは生きている」回顧

第20回彩路会絵更紗展で展示された竹田十路作、頭書題名の作品は、「永生」を力強く端正に描き、流麗に染め上げた見事な出来映えで、感動にしばらく足のとゞまる思いであった。

作品の中央より少し左の位置を占めて、太陽と巳の冠を載いた女神像は、緑色のゆたかな切髪を肩先で二分して垂らし、一方は右の乳房を覆っている。左手に切り取られた一本のパピルスの茎を捧げ、右手には鍵を下げ、体はやゝ左向きで、すらりと立つ姿が、すがすがしい印象を与える。

巾のある数連の首飾りの他は何一つ身にまとわない豊かな胸。腹から足首に至るサビ朱色の地に萌黄色で縁取られた亀甲紋の長い丈の衣裳は出色である。

あのエジプト古代王朝時代のレリーフに見るような彫りの深い顔立ちに特徴のある眉毛、そして目の表情が生き生きと線描されている。

そのまなざしは、永遠なるものへの心の願いが、数千年の歴史を経て現代に至り未来に向かって生きつづけるであろう永生へのかぎりない希望を表明しているかのように、「パピルス」に静かにそゝがれている。

永遠の生命、これはいつの世にも人類の変わりなく求めつづけて来た芸術のテーマでもある。いゝかえれば一茎のパピルスに象徴された「愛」はとこしえに生きていると私には一入深く思えた。

こゝで作品の表現技法にふれていえば、相当の大作であ

るが、天然繊維に見られる布地の素材効果を素直に生かして使っている、一例を挙げればロングスカートの肩吊りは無彩、無技巧であるが、それが作品をかえて面白くしている。

構成は、平面のみが持つ特性すなわち面の広がりや安定感を、確かな線描と面積効果でとらえ抑制を十分にきかせ、しか

も伸び伸びとこだわりなく表現して落ち着いた雰囲気と東洋的な神秘感をかもし出している。それは必要で十分な単純化がおこなわれ、さらに便化された伝統的な美の規範に基づくものなのであろう。また余白とのコントラストの妙であり、あるいは墨で線描された一つの不思議さともいえるようか。

さらに背景にうつれば、この分野はまさに絵更紗技法の粋とでもいうべく複雑多様な色彩表現で、さながら古代裂を見る心地がする。ブロック状に水平方向に色差しが行われ素地の存在感を巧みに表現しており、色調はサビ朱を一面に散らしたなかに緑が黄金色が浮き沈みする。この雅趣に富んだバックアップが一層主題を明快にしている効果は見逃がせない。

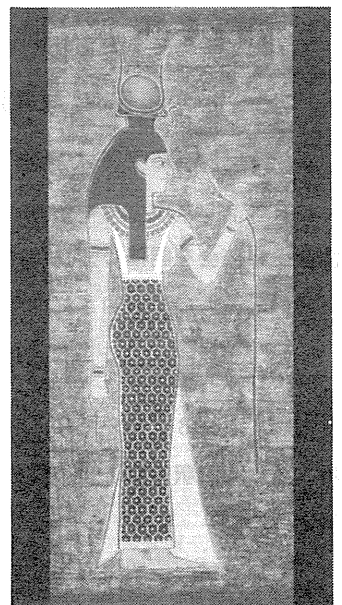
こゝまで見てきて一寸気がついたところにふれると首飾りの色調であろうか。いまの地色に少し色を重ねてみてはと思えた。

それともう一つ欲を言わせてもらえば額装は、ひとまわりサイズの大きい余白のたっぷりある額に変えてみたらどんなものだろう。

今回のような作品こそ、これからのインテリアに求められるもので、絵画とはおのずから一味ちがった魅力のある素晴らしい心の空間が生まれてくることをのぞみ期待したい。

(関東：吉住一信)

(お詫び：この一文は以前吉住会員から寄せられたものでしたが、委員会の手違いその他から、掲載が大変遅れ、ご本人にご迷惑をおかけいたしました。誌上より深くお詫び申し上げます。)



会員の消息

- ◇ **寺原芳彦** さらに新しいイメージで前進する気持とともにアトリエを移転することになりました。デザイン界もポストモダンの声が聞こえる今日ですが、私も今、スターティングポイントに立っているような気持になっております。又お気軽にお立寄り下さい。

(STOOL IN '82 寺原芳彦+えど・もも展を8月13日～25日 小田急ハルク4階で開きました。)

- 研究室 東京都世田谷区奥沢5-11-9

秀和自由ヶ丘レジデンス107

BY-STEP 〒158

TEL 03-723-9264

- 自宅 東京都目黒区中根1-15-15 〒152

TEL 03-724-5762

- ◇ J I D九州事業支部会員

(正) 小川欣一・(準) 石中法文

本回の当地方の水害につきましては早速ご懇親なお見舞並びに結構な品まで賜り厚く深謝いたしております。お蔭をもちまして人命の損傷もなく元気で平常通り業務を開始しておりますのでご放念下さいますようお願い申し上げます。

- ◇ **遠藤原一郎** (拝啓、初秋の候、益々ご清栄の事と存じます。9月1日より下記場所へ移転しましたので、よろしく願い申し上げます。

- 事務所 エンドウデザインスタジオ

静岡市宮本町6番15 サンコーポ宮本408号

- 自宅 静岡市宮本町6番15 サンコーポ宮本409号
- 車でお越しの場合、コーポ内駐車場No.8かNo.34を御利用下さい。

- ◇ **岩澤晴彦** (転居致しました。今後も宜敷くお願い致します。)

東京都清瀬市中清戸5-72-8-3 〒204

- ◇ **諸富幸成** (私儀、本年4月よりデザイン事務所の商品開発関連業務に加え、広報・宣伝並びに広告関連業務を強化のため「エムディオプランニング」を設立・活動してまいりましたが、このたび事務所を新設致しました。8月13日より下記の通り業務を開始致しますのでお知らせ申し上げます。

- エムディオプランニング

MDO 諸富幸成デザイン事務所

代表 諸富幸成

〒160 東京都新宿区新宿1丁目5番12号

明和ビル5階 TEL 03-352-7484

- ◇ **吉川 弘**

残暑厳しき折柄、皆様には、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。この度、下記の住所に転居致しました。お近くへお越しの際は是非お立ち寄り下さい。

〒108 東京都港区芝浦4-4-27

三田ナショナルコート701 03-456-1092

- ◇ **中村 昇** (9月17日より10月22日の約1ヶ月は、ふたたび、渡欧 IKEA におります。)

- 暑中御見舞・残暑御見舞を次の方々よりいただきました。

田村 茂・高木茂雄・福岡喜久雄・増本敏治

ミサワホーム(株)・西和インテリア(株)

(以上順不同・敬称略)

- ◇ 訃 報

- 中井太一郎氏 8月28日ご逝去

- **福田 友美氏**御母堂 7月12日ご逝去

- **桜井 定雄氏**御母堂 8月20日ご逝去(94才)

- **今崎 務氏**御母堂 8月31日ご逝去

7月、8月は会員関係の訃報に多く接した月です。心からご冥福をお祈り申し上げます。

新入会員の紹介

●新入会員

正 会 員

てら もと まさ あき 寺 本 雅 光 (会員番号 515) 	<勤務先・事務所> 福岡市南区市崎 2 丁目 1 4 - 1 6 神谷ビル 2 0 6 号 〒 815 (092) 521 - 4560 <自 宅> 同 上	
せ お まさ かつ 瀬 尾 雅 勝 (会員番号 516) 	<勤務先・事務所> イトーキオフィスプランセンターインテリア室々長 渋谷区渋谷 2 - 1 5 - 1 東邦生命ビル 503 号室 〒 150 (03) 499 - 2921 ~ 5 <自 宅> 目黒区洗足 2 - 1 7 - 2 7 - 5 0 4 号 〒 152 (03) 716 - 4805	

●会員の移動

正 会 員

会 員 名	移 動 事 項	新
矢 田 秀 治 (関 東) P. 100	事 務 所	アロー 7 デザインオフィス セブン (ニュース 6・7 の訂正)
白 坂 正 之 (関 東) P. 177	名 前 自 宅	白 阪 正 之 〒 353 埼玉県志木市館 2 - 6 - 6 - 602 電 話 0484 - 71 - 4198
垂 見 健 三 (関 東) P. 74	事 務 所	千代田区二番町 1 - 2 番町ハイム 333
諸 富 幸 成 (関 東) P. 100	事 務 所	エムディオプランニング MDO 諸富幸成デザイン事務所
白 石 勝 彦 (関 東) P. 62	事 務 所	〒 156 東京都世田谷区経堂 1 - 3 5 - 1 5 電 話 03 - 426 - 5179

吉 川 弘 (関 東)P. 106	自 宅	〒108 東京都港区芝浦4-4-27 三田ナショナルコート701 電 話 03-456-1092
大 和 宏 (関 東)P. 104	自 宅	〒222 神奈川県横浜市港北区菊名5-4-27
山 下 禮 子 (関 東)P. 102	事 務 所	アトリエ REIRA 〒182 東京都調布市染地3-1-ホ1-402 電 話 0424-84-5732
高 木 敦 子 (関 東)P. 68	自 宅	〒157 東京都世田谷区北鳥山3-13-21-402
遠 藤 原 一 郎 (関 東)P. 36	事 務 所 自 宅	〒422 静岡市宮本町6番15 サンコーポ宮本408号 電 話 0542-81-8056 〒422 静岡市宮本町6番15 サンコーポ宮本409号 電 話 0542-81-8056
奥 宮 守 (関 西)P. 122	勤 務 先	エーアールプランニング㈱ 〒170 東京都豊島区東池袋3-15-2 ライオンズマンションS池袋701 電 話 03-985-4373

名 誉 会 員

松 本 政 雄 P. 167	勤 務 先	(学)名古屋総合デザイン専門学校 附設 名古屋総合デザイン研究センター所長 〒460 名古屋市中区新栄一丁目9-6 電 話 052-261-8944
-------------------	-------	---

賛 助 会 員

サン・カーベット㈱ P. 201	担 当 者	企画開発部 課長 田 中 正 彦
ミサワホーム㈱ P. 216	担 当 者 のセクション	設計部意匠設計課 横 山 英 俊

●会 議

〔8月〕

2日 報酬基準特別委員会
3日 広報委員会
9日 報酬基準特別委員会
13日 関東事業支部委員会
18日 広報委員会

19日 コーディネーター検討会
24日 総務委員会
26日 関東事業支部委員会
27日 第3回理事会
" 広報委員会

〔9月〕

2日 事業委員会
7日 広報委員会
10日 " "
13日 " "
14日 関東事業支部委員会

〔予定〕24日 57. 第4回理事会

寄贈図書（・印寄贈者）

・ 財 日 本 交 通 文 化 協 会	PUBLIC SPACE	8. 18	財 日 本 交 通 文 化 協 会
・ 財 商 店 建 築 社	商店建築 9	8. 30	月刊商店建築&建築図書出版

事務局短信

① 台風10号、13号と今年は秋台風が各地に被害をもたらしました。

会員諸兄のお宅はいかがでしたか？

② 本号は金沢交流展関係の関東、中部両支部の事業案内

を載せました。積極的にご参加下さい。

③ 今月から下期になりました。新年度、過年度とも会費未納の方、至急納入をお願いいたします。

④ 九州支部では11月に「作品展」が計画されています。関連記事をお寄せ下さい。

（事務局 山品）

J I D NEWS 1982/9・10

（日本インテリアデザイナー協会月報1982年通巻117号）

毎月1回発行 領価250円

編集・社団法人 日本インテリアデザイナー協会総務委員会

昭和57年9月25日発行

山口勇次郎・西沢圭三・竹森聖子・中村圭介・

発行・社団法人 日本インテリアデザイナー協会

合田正甫・大和宏・山田晃・平井美蔓・佐戸川清・

塩田一夫・高木敦子・安藤孚・山品元・新川佐知子

印刷所・広洋印刷株式会社

振替・東京8-76389